

リバティーモラルとは我が精神心思の絶えて他物の束縛を受け
ず、完然発達して余力なきを得るをいふこれなり。乃ち天地
に俯仰して愧怍するなく、これを外にしては政府教門の箝制
する所とならず、これを内にしては五慾六悪の妨碍する所と
ならず、いよいよ進みて少しも撓まざる者なり。

【大体の意味内容】。リバティーモラル (Liberty Moral 自由道德) とは、我々の精神や感情、

思考が、他人から縛られたり強制されたりすることなく、天然自然の摂理に則って発達し、
余分な権力や暴力、様々なパワハラを行使するような卑劣さから解放された状態のことで
ある。つまり、天を仰ぎ、大地に俯いて天神地祇に正対しても何ら恥ずべきところの無い生き
ざまである。このリバティーモラルを我が身の外へ表現する際には、政治権力や宗教的
権威に服従することもなければ、不本意に捻じ曲げられることもない。リバティーモラルをわ
が身の内に及ぼすに当たっては、財・色・飲食・名誉・睡眠を求める五つの欲望に妨げられ
ることはない。同様に、魔がさす時・悪所への興味・人格の暗黒面・邪な見方・妄想・正義
否定といった、誰にでも起こり得る六つの悪によって、碍られることもない。そういったこと
で変形変容することなく、真つすぐに発露される気概なのである。

自由と道德とは、深く考えないでいると対立してしまいます。「自由」は「勝手気まま、わがまま」
放題のことと思われがちで、「道德」は「お年寄りに席を譲るべき」「いじめをしてはいけない」とい
った義務でがんじがらめにされることと考えられます。でも本当はそのような表面的なことではありま
せん。「自由＝自分で由(よ)る」と言うとおり、他人に頼ったり他人のせいにしたりせず、すべて自己
責任で生きるという厳しい道で、そのためには人としての道に反するような態度・振る舞いをしてい
てはお互いに危険です。権力や権威に対しては強力に対抗し、決して自分をゆがめないことと、敵であ
ってもその立場や考えを尊重し、全力で保障するのも、大事な「自由」であり、同時に「道德」なのです。

